

社労士法人HALZ社内報

NOW&FUTURE

2026.1
VOL.5



競馬部の未来を語る

競馬部 常井敬弘さん（部長） 吉田さん（副部長）
にインタビュー

“**ギャンブル**”としての側面が強い競馬。

1日に12レースが開催され、単勝・複勝・3連単などのちょっと複雑な馬券の購入システムがあり、時には1日で数十万円を賭ける人もいます。一方で、競馬を単なる“**ギャンブル**”として捉えるのではなく、“**スポーツ**”や“**ドラマ**”として捉えるファンも少なくありません。

その1人が常井敬弘さんです。常井さんを部長として結成された競馬部は、単なる競馬観戦を超え、HALZの仕事仲間と競馬の魅力を分かち合う社内交流の場です。

興奮や勝負の楽しさといった醍醐味だけでなく、リフレッシュや新たな発見を得られる“**大人のレジャー体験**”として活動を行っています。今回は、HALZの勝負師、常井さんにその神髄を聞いてみました！



NOW&FUTURE



常井 敬弘
(つねい たかひろ)

2024年入社
出身地：東京都
競馬部 部長



Q1：競馬に興味を持ったきっかけと、そこから競馬部が立ち上がるまでの経緯を教えてください。

A：競馬にハマったのは、中学生のときに友達が競馬を見ていて、自分もつられてテレビで観るようになったのがきっかけです。そこから自然と面白くなっていて、今でも競馬場に行くよりテレビで観ることのほうが多いですね。馬券を買わなくても十分楽しめます。

そんな感じで競馬が好きだったので、毎朝ある朝礼の3分間スピーチで僕とある競走馬について話したことがありました。その後に岸本さんに競馬の話を個別でお話して、その後、藤田さんに競馬部やと任命されました。気付いたら部活化していました(笑)。

Q2：競馬の魅力と、競馬部にかける思いを教えてください。

A：競馬の魅力としては、何度も同じ馬同士が戦う“因縁”やスポーツとしての駆け引き、ライバル関係があって、そのたびに勝ったり負けたりするところですね。競馬は本当に筋書きのないドラマのようで、見ていて泣いたり感動したり、寝転がって見ていたのに眠気が覚めることもあります。そして、馬を生で見たときの感動は、芸能人を初めて生で見たときのような特別な感覚になると思います。

競馬部を通じて大切にしたいことは、どうしてもギャンブルのイメージが強いと思いますが、競馬はとてもドラマティックであり、奥が深く、情報量が多くとてもディープな世界です。お馬さんはかわいく、美しく、観戦して白熱したり、馬を見て癒されたりリラックスしたりできるのが理想だと思っています。



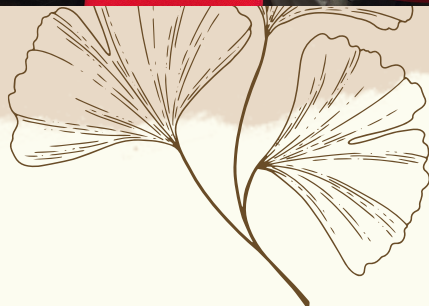
NOW&FUTURE



Q3：特に印象に残っているレースや、 競馬が生活にどんな影響を与えているかを教えてください。

A：印象に残っているレースはいくつもありますが、特に2011年のジャパンカップは忘れられません。前年の2010年は私の推し馬“ブエナビスタ”がゴール後に審議で降着となり、勝利を逃してしまったんです。でも翌年のジャパンカップでリベンジを果たしました。その推し馬は小柄で穏やかな牝馬で、2009年には牝馬限定のオークスで優勝していましたが、ジャパンカップでは牡馬に混じって、父親と同じレースで勝ったんです。その引退式では本当に泣いてしまいましたし、寂しい気持ちになりました。

競馬は、こうした思い入れのあるレースやストーリーを通して、日々の生活にも彩りを与えてくれています。週末のレースが楽しみになったり、馬の成長や結果を追いかけることでモチベーションが上がったりと、私にとって大切な趣味のひとつになっています。



※2011年のジャパンカップは、
東京競馬場で開催された国際的
な競馬レースである。

国内外から強豪が集まり、
2400mの距離で競われた。

外国馬と日本馬が対決し、
そして日本ダービー馬や天皇賞
馬など、主要レースの優勝馬が
出馬した。

NOW&FUTURE

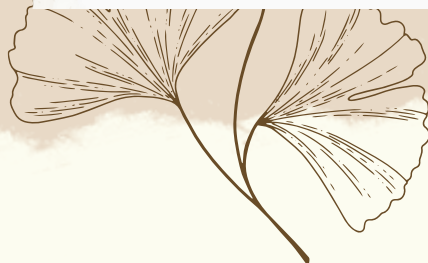
Q4：今後の活動の方向性や、目指す姿について お伺いできますか？

A：ギャンブルを推奨したい訳ではないので、実際の競馬場でお馬さんやその馬の血統、騎手との関係性やレース場との相性、戦績を見てワイワイ、お馬さんや競馬について、色んな面からあーだこーだ言い合って皆さんが笑顔になれるような部活にしたいと思っています。



Q5：吉田さん（役員）が副部長に就任されますが、 部長として、どのように受け止めておられますか？

A：実際、吉田さんと対面で喋ったことがないので、とても楽しみにしています。これを機に吉田さん以外の部署や年代の上下を問わず、色々な方々と、それ以外の競馬に持ってくれる方が居れば、その方ともコミュニケーションツールとして競馬を通じて、一喜一憂したいと思います。



NOW&FUTURE

Q6：部の成長や活動に対して、 どのような期待をお持ちでしょうか？

A：最終的に部員が楽しくなければ部活していても意味がないと思いますので、やはり実際の競馬場でレースを観戦したり、その競馬場での名物などを食べたり、お馬さんの迫力・かわいさ・速さの臨場感を味わってもらい、好きになってもらいたいです。



Q7：これから参加してみたい人や、 迷っている人へ向けた一言をお願いします！

A：現地に行って生で見てほしいという気持ちはありますが、競馬は“ギャンブル”ですし、ハイリスクでもあるので、ほどほどに、自分のお小遣いの範囲で楽しむのがいいと思います。でも“スポーツ”として見れば、いくらでも楽しめるんじゃないかと思っています。ギャンブル以外の面、例えばお馬さんのドラマやスポーツとしての見どころも伝えたいですね。レース自体はあっという間に終わってしましますが、その数分のためにあれこれ考える時間もとても楽しいですし、普段仕事をしているだけでは感じられない臨場感を共有できたら、とても嬉しいです。



NOW&FUTURE



吉田 明世
(よしだ めいせい)

HALZのグループ会社
株式会社管理本部 事業本部長
競馬部 副部長



Q1：競馬部に参加されたきっかけは何でしょうか。

A：私はこれまでに競馬をしたのは人生2回ほどで、まだ全然詳しくはないのですが、もともと経済学部ということもあり、今からいろいろ覚えていくなれば競馬が自分の専門性と一番合っているのではないかと感じています。大学で学んだ方向性という意味でも、競馬であれば統計などを使って楽しめるのではないかと感じ、競馬部に入部したいと思うようになりました。

Q2：吉田さんにとって、 競馬部はどんな存在なのかを教えてください。

A：HALZには他にも部活動があって、麻雀部にも少し興味がありましたが、1からルールなどを覚えることは大変だったり、年齢的なこともあって腰を悪くしてしまったり、長時間座っているのがつらかったりします。競馬であれば、予想の世界で、しっかり勉強して予想することができるので、私でもできるかなと思い、競馬部に参加しました。



NOW&FUTURE

Q3：これから競馬について、どんな勉強をする予定ですか。

A：本を4冊買って、まずは競馬の基本から勉強しようと思っています。それから全国の馬場について、ジョッキーに関する知識も調べていくつもりです。さらに、いわゆる“血統（DNA）”の分野についてもしっかり学んで、競馬部で頑張っていけるように準備していきたいと考えています。

今月から年内いっぱいの中賞レースに関しては、部長の意向も踏まえながら、みんなで活動していきたいです。みんなで集まって、軽食を食べながら観戦するのも楽しいですね。



吉田さんは競馬の専門知識を本から勉強

Q4：副部長に立候補された理由について、お聞かせいただけますか。

A：社員としての参加だけでなく、副部長として関わることに、より強い意欲を感じています。私はもともと企画や営業の仕事をしていたので、部の運営を企画してどんどん楽しいものにしていくなら、副部長に立候補して取り組みたいと思っています。

Q5：競馬部に対して、今後どんな期待や目標を持っていますか。

A：家から往復して会社に来て、仕事だけやって、一日終わって帰るだけじゃつまらないですよね。でも、競馬部の活動を通じて、会社のメンバーはもちろん、場合によっては競馬好きな取引先の方も巻き込んで一緒に楽しめれば、仕事ももっと楽しく前向きにできると思います。

人生も同じで、仕事と一緒に部活動を楽しみながら前向きに取り組んだほうが面白いと思っています。大学の部活勧誘と同じように、HALZでも勧誘していきたいと思っています。競馬部のパンフレットができれば、ぜひ朝礼で募集をしたいです。

NOW&FUTURE

編集後記



今回のインタビューに快くご協力くださった
常井さんと吉田さん、本当にありがとうございました。

お二人のお話を通じて、

競馬が単なる“ギャンブル”ではなく、
血統のドラマやスポーツとしての迫力、そして人生に
活力を与えてくれる存在であることを知りました。

特に常井さんの推し馬、

“ブエナビスタ”への思い出は、とても印象的でした。

常井さんにとって競馬とは活力をもらえる存在ですが、
皆さんにとって、そうした存在はありますか？
趣味が人生に与える影響の大きさを改めて考えさせられる
インタビューでした！

社内の皆さんも是非、ご自身の“趣味“を語り合うきっかけ
にいただけたら嬉しいです。

取材・文：熊谷彩 トウエンエン